

東北楽天ゴールデンイーグルスの経済効果について

宮城県震災復興・企画部
震災復興・企画総務課

1 概要

2016シーズン終了による観客数の確定を受け、アンケート調査^{*1}や楽天野球団からのヒアリングを基に、東北楽天ゴールデンイーグルス一軍ホームゲームの開催が宮城県内にもたらした経済効果^{*2}を推計した。

推計に当たっては、観客動員実績を基に一試合当たりの観客数を 22,652 人、アンケート調査結果から観客一人当たりの消費額を 7,467 円（日帰り客）とし、一軍ホームゲーム開催時の観客消費による経済効果を宮城県産業連関表（平成 17 年）^{*3}を用いて算出した。

この結果、ゲーム開催による観客の入場料、交通費、飲食費やグッズ購入費などに伴う直接効果が約 129 億円、直接効果から生じる各産業への波及効果（1次、2次）が約 84 億円、合わせて約 **213 億円の経済効果**と推計した。

レギュラーシーズンで比較すると2015シーズン（約 206 億円）からは約 7 億円の増加となり、これまでで最高となった。

2 前提

① 観客数：楽天 Kobo スタジアム宮城において開催された一軍のホームゲームの公式観客数（楽天野球団調べ）

1,517,680 人（試合数:67 試合 対象期間:3/25~10/2 一試合平均:22,652 人）

② 宿泊率：5.3%が宿泊するものと仮定（今年度含め、過去の平均値）（宮城県アンケート調査結果）

③ 観客一人当たりの消費額

日 帰 り 客		入場料等	交通費	飲食費	グッズ購入費	計
	今季	2,534 円	993 円	2,167 円	1,773 円	7,467 円
	昨季	2,500 円	1,121 円	2,518 円	1,876 円	8,015 円
	増減	34 円	-128 円	-351 円	-103 円	-548 円

宿 泊 客		入場料等	交通費	宿泊・飲食費	グッズ購入費	計
	今季	2,534 円	9,057 円	15,997 円	4,368 円	31,956 円
	昨季	2,500 円	10,000 円	14,726 円	4,120 円	31,346 円
	増減	34 円	-943 円	1,271 円	248 円	610 円

（入場料等については楽天野球団調べ。その他は宮城県アンケート調査結果）

3 推計結果

区 分		2016 シーズン	2015 シーズン	増減（増減率）	要 因
前提条件	試合数	67 試合	66 試合	1 試合（1.5%）	○試合数の増加 ○観客数の増加
	年間観客数	1,517,680 人	1,413,517 人	104,163 人（7.4%）	
	一試合平均観客数	22,652 人	21,417 人	1,235 人（5.8%）	
	観客一人当たりの消費額（日帰り客）	7,467 円	8,015 円	-548 円（-6.8%）	
経済波及効果 A+B		213 億円 〔一試合当たり〕 3.2 億円	206 億円 〔一試合当たり〕 3.1 億円	7 億円（3.4%）	
直接効果 A		129 億円	127 億円	2 億円（1.6%）	
1次・2次波及効果 B		84 億円	79 億円	5 億円（6.3%）	
誘発される雇用者数		2,006 人	1,942 人	64 人（3.3%）	

4 その他の経済効果

ホームゲーム開催による経済効果以外にも、以下をはじめとした各種の大きな効果が見込まれる。

①シティセールス効果

プロ野球は全国への情報発信力が高く、テレビや新聞などマスメディアを通じ地域の知名度が向上

②二軍戦など球団運営による消費効果

宮城県内での二軍戦開催、ホームゲーム開催時以外の事業活動（ボールパーク構想による誘客、物販、広告など）や球場の管理などによる消費効果

③ビジター（対戦）球団や取材メディアによる消費効果

来県するビジター球団の選手や帯同スタッフ、取材メディアの飲食や宿泊などによる消費効果

④選手の居住による消費効果

高額所得の選手が、県内に居住することによる消費効果

※1 平成 28 年 9 月 3 日（土）のホームゲームにおいて、観客一人当たりの消費額、年齢層、居住地、交通手段等を調査。有効回答は 489 件。

※2 ゲーム開催による観客の消費（直接効果）は、飲食やグッズなどの原材料の供給を通じて他の産業の生産にも波及する第一次効果に、第一次効果によって生み出された雇用者所得が消費に回ることにより、さらに生産を誘発する第二次効果を合計したものを経済効果として算出している。

また、こうした経済効果により、創出された雇用者数を推計（誘発される雇用者数）。

ただし、いずれも計算モデルに基づく推計値であることに注意が必要。

※3 産業連関表は、産業相互間及び産業・最終消費者間の取引を一覧表にまとめたもので、その表から導き出される係数を用いて、経済効果を分析することが可能。なお、平成 23 年の産業連関表が最新であるが、平成 23 年は県内生産額が大幅に減少するなど東日本大震災の影響を大きく受けていることを考慮し、今回の推計にあたっては平成 17 年の産業連関表を用いた。

(参考) 経済効果の年次推移

区分	2016	2015	2014	2013	2013	2013	2012	2011	
	シーズン	シーズン	シーズン	シーズン	CS	日本シリーズ	シーズン	シーズン	
前提条件	試合数	67試合	66試合	67試合	67試合	4試合	4試合	68試合	63試合
	年間観客数	1,517,680人	1,413,517人	1,350,293人	1,184,981人	97,089人	100,948人	1,102,688人	1,001,648人
	一試合平均観客数	22,652人	21,417人	20,153人	17,686人	24,272人	25,237人	16,216人	15,899人
	一人当たりの消費額(日帰り客)	7,467円	8,015円	9,060円	8,975円	11,258円	14,095円	7,531円	7,069円
観客消費 経済波及効果 A+B		213億円	206億円	212億円	187億円	18.9億円	24.4億円	145億円	124億円
		[一試合当たり 3.2億円]	[一試合当たり 3.1億円]	[一試合当たり 3.2億円]	[一試合当たり 2.8億円]	[一試合当たり 4.7億円]	[一試合当たり 6.1億円]	[一試合当たり 2.1億円]	[一試合当たり 2.0億円]
	直接効果 A	129億円	127億円	132億円	115億円	11.7億円	15.0億円	89億円	76億円
	1次・2次 波及効果 B	84億円	79億円	80億円	72億円	7.2億円	9.4億円	56億円	48億円
	誘発される 雇用者数	2,006人	1,942人	1,997人	1,769人	183人	234人	1,392人	1,225人

区分	2010	2009	2009	2008	2007	2006	2005	
	シーズン	シーズン	CS	シーズン	シーズン	シーズン	シーズン	
前提条件	試合数	68試合	70試合	2試合	70試合	71試合	62試合	64試合
	年間観客数	1,067,334人	1,179,770人	42,691人	1,131,173人	1,123,657人	905,820人	939,566人
	一試合平均観客数	15,696人	16,854人	21,346人	16,160人	15,826人	14,610人	14,681人
	一人当たりの消費額(日帰り客)	7,615円	7,277円	8,328円	6,302円	6,617円	6,100円	6,911円
観客消費 経済波及効果 A+B		138億円	155億円	6.5億円	125億円	129億円	97億円	121億円
		[一試合当たり 2.0億円]	[一試合当たり 2.2億円]	[一試合当たり 3.25億円]	[一試合当たり 1.8億円]	[一試合当たり 1.8億円]	[一試合当たり 1.6億円]	[一試合当たり 1.9億円]
	直接効果 A	86億円	93億円	3.9億円	75億円	78億円	59億円	73億円
	1次・2次 波及効果 B	52億円	62億円	2.6億円	50億円	51億円	38億円	48億円
	誘発される 雇用者数	1,363人	1,427人	60人	1,115人	1,174人	876人	1,129人

区分	レギュラーシーズン累計	レギュラーシーズン+CS+日本シリーズ累計	
前提条件	試合数	803試合	813試合
	年間観客数	13,918,127人	14,158,855人
	一試合平均観客数	17,333人	17,416人
	一人当たりの消費額(日帰り客)	—	—
観客消費 経済波及効果 A+B		1,852億円	1,871.2億円
	直接効果 A	1132億円	1162.6億円
	1次・2次 波及効果 B	720億円	708.6億円
	誘発される 雇用者数	—	—